

中野区教育委員会会議録

平成27年第7回臨時会

平成27年7月29日

中野区教育委員会

平成27年第7回中野区教育委員会臨時会

○日時

平成27年7月29日（水曜日）

開会 午後7時00分

閉会 午後8時14分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 田辺 裕子

教育委員会委員 渡邊 仁

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 増田 明美

教育委員会委員 小林 福太郎

○出席職員

教育委員会事務局次長 奈良 浩二

教育委員会事務局副参事（子ども教育経営担当） 辻本 将紀

教育委員会事務局副参事（学校教育担当） 石濱 良行

教育委員会事務局指導室長 杉山 勇

○書記

教育委員会事務局教育委員会担当係長 金子 宏忠

教育委員会事務局教育委員会担当 高橋 綾菜

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田辺 裕子

教育委員会委員 増田 明美

○傍聴者数

0人

○議題

1 協議事項

（1）平成28年度使用教科用図書の採択について

○議事経過

午後 7 時 1 0 分開会

田辺教育長

ただいまから教育委員会第 7 回臨時会を開会いたします。

本日の会議は、定足数に達しております。

本日の会議録署名委員は、増田委員をお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

ここでお諮りいたします。本日の協議事項、平成 28 年度使用教科用図書の採択については、公正を確保するため、採択過程にあつては中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第 1 項の規定に基づき非公開と定めておりますので、本日の教育委員会の会議についても地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書により非公開といたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定しました。

(以下、非公開)

(平成 27 年第 22 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開)

<協議事項>

田辺教育長

それでは日程に入ります。

前回に引き続き、「平成 28 年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。

協議の進行につきましては、前回と同様の方法によりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

本日は、保健体育の教科をご協議いただいた後、7 月 23 日の臨時会で協議の結果保留といたしました歴史、公民の教科について改めてご協議をいたします。

それでは、保健体育について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたしたいと思います。

まず、増田委員、お願いいたします。

増田委員

私は、保健体育というのは、まず自分の健康を守るという力の育成が大事だと思います。

その中で、体力を向上させるという項目がどれだけ書かれているか、それから、体を守るという面での知識が、どれだけ内容が濃いかという視点で読み比べしてみました。その結果、東京書籍と大修館書店が保健体育の教科書にふさわしいのではないかとというふうに思いました。両方とも新体力テストのことがわかりやすく書かれていますし、また、知識という面に関しては災害に強い体をつくれるかどうか、また感染予防のことが記載されているかどうか。そして、性に関すること、がん教育、禁煙に関すること、薬物乱用についてということで見てみましたら、東京書籍と大修館書店が大変わかりやすく、また読みやすく、写真などの使い方もわかりやすく書かれていたので、どちらがいいかと悩んでいるところです。

ただ、授業の進め方として、東京書籍の目次を見ましたら、1年生、2年生、3年生という区切りがあったので、これは先生方が授業しやすいのではないかなと思いました。

大修館書店のほうは、紙面の構成ですとか文章の量とか大きさなどはとても読みやすいと思うのですが、性に関するところでの写真がすごくリアルに感じたのですね。東京書籍のほうが良い感じで説明書きされていて、そういうことも含めて、どちらかというと東京書籍を推したいと思います。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

次に、渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

4者ともに非常によく書かれております。この中で私は、学研教育みらいと大修館書店と東京書籍がいいのではないかなということで見えていました。

注目すべき点として、喫煙と薬物について重点的に見させていただきました。

それで、読み物として見ていくと、若干内容量が少ないのですけれども、大修館書店は見やすく構成されているのではないかなと。そして、考えさせるような形で喫煙に対する思いというのが書かれているのも、一つおもしろいと思いました。

薬物乱用については、東京書籍が非常に社会の影響とかその実例を、証言をもとにして、いかにいけないことかということを生懸命訴えようという内容で書かれています。そういう意味で3者、なかなか甲乙つけがたいところなのですけれども、薬物のところを見ると、東京書籍はとてもよくできているのではないかなと思いました。

がんやアレルギーについては、学研教育みらいもよくできていると思いました。

オリンピックに関する記述の差もちょっと確認したのですが、いろいろと総合してみますと学研教育みらいと東京書籍については、私としては甲乙つけがたいかなというふうに思います。

それで、本のサイズの違いが学研教育みらいと東京書籍はあるのですが、紙面の余裕ということから考えたら、資料的な意味も踏まえると、少し大きいサイズの東京書籍は見やすいのではないかなというふうに感じました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

田中委員、お願いします。

田中委員

私はこの4者の中で、一つは、東京書籍が年次ごとに分かれているのは、保健と体育については、教科書の中で保健と体育という分野がまとまって、つながっているほうがかえって学びやすいのかなというふうに思いました。

増田委員もおっしゃいましたけれども、やはり体力の部分が保健体育の中で非常に大事だと思うので、やはり体育、保健の順のほうがいいかなという意味で、私は最終的には大修館書店とそれから大日本図書が合致しているということで、少しその二つの中で細かく比較をしてみました。

スポーツのところは、生涯スポーツということがすごく大事だと思うので、大修館書店だと32ページ、33ページ、それから大日本図書だと34ページ、35ページで、この点については、大日本図書のほうがうまく書いてあっていいかなというふうに思いました。

それから、けがのところに注目したのですが、大修館書店は87ページ、それから大日本図書が58ページなので、大修館書店の87ページのところで「けがの多くは防ぐことができる」という、けがの予防という視点がこれからすごく大事だと思うので、しっかり触れて明確に打ち出していたのがいいかなと思いました。

あと、もう一つ、大日本図書はそこでヒヤリハットについてうまく表現されていて、これは大日本図書のほうがちょっといいのかなというふうに思いました。

それから、食のところなので、比べてみると、大日本図書のほうがすごくいろいろな資料が出ていて、資料集的な意味では大きいかなと思ったのですが、生徒に

とってまとまってわかりやすいなという意味では、大修館書店のほうコンパクトにまとまっていていいなというふうに思いました。ほかの部分でも大修館書店のほう全般にコンパクトにまとまっていて、生徒が学びやすいように感じました。

そのほかに、増田委員から性のところのイラストがちょっとリアルだというお話が出たのですが、私はそここのところは逆に、中学生なので、少しリアルなほうが教材としてはいいかなというふうに思いました。

両方とも甲乙つけがたいのですが、どちらかというとなら大修館書店がいいかなというふうに感じました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

小林委員、お願いします。

小林委員

私はこの四つの中で、全体のバランスや様々な視点から、第1に東京書籍、それから次に大日本図書、この二つを挙げました。幾つかの理由なのですが、まず保健体育で保健に重点が置かれがちですが、やはり体育に関する記述という点で、しっかりと東京書籍は取り上げている、内容もしっかりしているということ。

それから、東京書籍は、「いじめられている君へ」という元プロ野球選手の松井秀樹さんの文章が入っていたりとか、生徒の立場からしても非常に親しみやすいというか、必要なものが全体の中に取り上げられているという点がまず目を引きました。

既にもう何人かの委員からもお話がありました目次の構成なのですが、やはりこれを見ますと、東京書籍の紙面構成は学年ごとにしっかりと示されている点がやはり重要なことというふうに思います。特に保健体育の場合には、実技が優先されがちなのですが、やはり年間105時間の中で、少なくともその中の17時間程度はしっかりと保健を学ぶという、そういう点で1年生ではこれだけ、2年生ではこれだけ、3年生ではこれだけというものがしっかりと打ち立てられているという点で、やはり中野区の子どもたちにこの内容をしっかりと学習してもらいたいと、そういう紙面構成になっているというのが非常に優れているかなというふうに思いました。

それから、大日本図書のよさは、体育の中でもページ数からすると武道やダンスに関して非常に多く取り上げられています。現場の中では、武道とダンスに関しては苦手意識の

強い先生も多いというようなことから、大日本図書は非常にこのことについては、ほかの3者に比べるとページ数も多く割いているので、これは大きく評価できるところかなというふうに思いました。

それから、防災の点ですけれども、プラスして環境にも気を配っているという点では大日本図書と東京書籍が優れていると。

それから、オリンピックについては東京書籍と学研教育みらいが良いのですが、学研教育みらいは、パラリンピックの視点がやや弱いかなと。そういう点では、ほかの会社はオリンピック、パラリンピックをうまく両面を取り上げているのですが、数としても東京書籍は非常にそういう点は勝っているなということです。これから東京オリンピックに向けて、学校現場も取り組んでいかなければいけないというようなことを考えたときに、有力な広報というようなことで考えてもらいたいと思います。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。最後に私の意見を申し上げます。

私は、東京書籍と大修館書店の教科書が全体を通していいのかなというふうに思いました。特徴的なことは、それぞれの委員からお話ししていただいています。大修館書店と東京書籍に関しては私も同意見です。

大修館書店については導入がとても丁寧だということ、それから、チャレンジというコーナーがあって、考えさせて表現させるというようなこととか、章ごとに学習のまとめがあるということで振り返りもできるというようなことがあります。それから情報資料室というのがあって、発展的に考えられるということで、今の教育活動にふさわしいのではないかなというふうに思いました。

一方、東京書籍は、皆さんおっしゃるようにまとまりもいいし、情報量も非常に多い。また、本文と章末の資料がリンクというところで結ばれていて、発展的な学習がしやすいとか、それから、他の教科との関連というような項目がありました。

細かく見ていきますと、先ほど渡邊委員もおっしゃったように、がんについては本当に丁寧で、わかりやすく記述されているのがいいなというふうに思いました。

歯の健康についてのところも見てみたのですけれども、歯のことを取り上げているのは東京書籍と大修館書店だけだったように思いました。東京書籍は虫歯のことだけを取り上げていて、大修館書店は歯周病のところを詳しく取り上げていて、今の歯科衛生というか

学校歯科の中では、子どもたちの虫歯は大分少なくなっているのですが、学年進行するにつれて歯周病がすごく多くなってきているのが気になっていて、この点では大修館書店はなかなか鋭いなというふうに思っていました。全体を通しては学年ごとの区切りがあるということもあって、私は東京書籍のほうを1番にしたいなというふうに思っています。

以上です。

ほかに、各委員からご発言はございますか。

増田委員

先ほど言い忘れました。東京書籍は、初めのページに「スポーツの力」という、すごく躍動感がある写真と説明がありまして、5年後の東京オリンピック・パラリンピックを見据えての内容もとても充実しているということをつけ加えさせていただきたいと思います。

田辺教育長

各委員からそれぞれご意見をいただきましたが、全体的に判断しまして、東京書籍を推す声が多かったというふうに思います。保健体育については、東京書籍を採択候補にしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、保健体育については、東京書籍を採択候補とすることに決定しました。

それでは、歴史についての再協議を行います。事務局から前回の協議の過程について報告をお願いします。

指導室長

それでは、協議の過程について簡単にご説明申し上げます。社会、歴史的分野は、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社、学び舎の8者から採択することとなっております。その中で、育鵬社、教育出版の2者について、歴史的事実の事象の記載、資料の豊かさ、問題解決学習の進めやすさ、小学校との接続への配慮がある等について意見が集中いたしました。協議を進めていただき、教育出版及び育鵬社の2者の教科書が候補に挙がりましたが、歴史については協議が整わなかったため、日を改めて再度の協議となりました。

報告は以上です。

田辺教育長

それでは、改めて各委員のご意見を伺います。歴史について、初めに増田委員のご意見を伺いたいと思います。

増田委員

私は教育出版と育鵬社、読み比べてみたのですけれども、教育出版のほうが教科書としていいかなというふうに感じました。育鵬社は本当に読み物としてすごく読みやすいですし、わかりやすくおもしろいのですよね。ただ、1ページ目で見ますと、育鵬社の方が日本の美の形というところから入っていき、教育出版のほうは1ページ目から歴史のなかの言葉というところで世界観があって、世界観があるかないかの違いというのを感じました。

その視点でいくと、教育出版はルネッサンスの文化についても、育鵬社と比べると取り扱が多いですね。ルネッサンスのボッティチェリの『春』という絵の大きさの扱いですとか、あと中世のヨーロッパとイスラム世界というところなども含めて、世界観が感じられます。また、教育出版は問題解決への視点がすごく高度な感じがしました。

そして、教科書の終わり方というところで見ましたら、教育出版が、「未来を拓くため」というところで、すごくグローバル化に関して考えさせられるようなところで終わっているところもいいと思いました。

ですので、育鵬社は本当におもしろく読めるのですけれども、世界観という視点から私は教育出版のほうを選ばせていただきます。

田辺教育長

ありがとうございます。

小林委員、お願いいたします。

小林委員

前回は育鵬社、更には教育出版ということでこの2者を取り上げてお話をさせていただきました。再度、前回の協議の後、また深くいろいろな箇所を読み比べてみたのですけれども、前回もちょっとお話をいたしましたように、どれぐらいの人物を取り上げているかという集計に関しては、育鵬社がほかの会社と比べても圧倒的に数が多くなっています。大体、取り上げている箇所は720ということなのですが、全体的な平均は500ぐらいということですので、これによって興味深く、幅広く学べる、そういう点は非常に優れていると思うのですが、一方でこれをどう見るか。歴史上の人物を適切な数で取り上げることにいろいろ意見が分かれるところだと思うのですが、教育出版は全体の中でも、バ

ランスのとれた数、平均値に近い状態で約 500 箇所取り上げているということですので、この辺りのバランスを一つ挙げました。

もう一方では、国際関係や文化交流についてどれぐらい取り上げているかという調査・研究の結果が出ているわけですが、育鵬社と教育出版が両方とも数が多く、この点は非常に優れているということですので、これは両者とも甲乙つけがたい状況であるということだと思います。

文化遺産に関してなのですから、教育出版に関しては、現代の日本と世界という、そういった時代の区分での文化遺産の取り上げ方が若干少ないという部分があります。この辺はちょっと気になる部分でありました。

しかしながら一方、世界の歴史についての取り上げ方なのですが、グローバル社会を見据えたときに、日本の歴史を学ぶとともに世界の動向や世界との結びつきをどういうふうに見ていくかという点では、教育出版が優れている部分であるというふうに取り上げた次第です。

育鵬社は歴史の書物としては大変興味深く、非常に優れているということなのですが、この両者に関しては甲乙つけがたい状況で、非常に悩ましい状況であるということだと思います。この点、私ももう少し議論を深めて、考えをまたお話をさせていただきたいというふうに思います。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は前回、教育出版と日本文教出版を推していたので、改めて育鵬社も少し丁寧に読ませていただいたのですが、内容はすごくしっかり記載されていていいなと思いました。ただ、事実を冷静に伝えるという視点からいくと、どちらかというと教育出版のほうが冷静に伝えているのかなというふうに思いました。間違っているとか正しいとかいうのではなくて、非常に平等の立場で、きちんと冷静に生徒に伝えようという雰囲気伝わってきた点では教育出版がいいなと思っています。育鵬社は学習のまとめ方については非常によく考えられていて、そういう点ではいいと思いました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

育鵬社は非常にイラストがよくて、写真が多くて、読み物としてきれいに、本当によくできていると思います。

近世とかいろいろと時代ごとに、スタートのところに歴史絵巻という内容があり、興味を持ちながら見ていくというような手法を取り入れていて、これは非常にわかりやすいです。教育出版は、ページごとに丁寧にその時代を説明しているという点では、いつの時代なのかなとわかりやすく、歴史の勉強をしていく上にはいいのかなと。

それと、1ページ目のスタートのところから見ると、日本のものを中心的に育鵬社は取り上げて、写真も多く取り上げています。歴史ということの世界史と対比して物事を考えようとする考え方としては、教育出版のほうが教科書的に、そういった意図が見えるのではないかと。

今度は巻末なのですけれども、いろいろな世界地図が、ヨーロッパの中世の世界地図が出ているところも、勉強していく上では教育出版のほうがおもしろく書いているのかなと。

また、年表についても教育出版は内容が充実していて、資料として使いやすいと思います。

内容的に見ていくと、教育出版のほうが、教科書という視点に立って考えると、学問を進めていく上にいい方法をとっているかなというふうには感じています。ただ、先ほど言った歴史の流れというような形で考えると、育鵬社は、歴史絵巻がそのままその表紙にもなっていて、その中には世界史も混ざっているのですね。これはやはり非常に工夫しているなと思います。

あとは、写真構成とイラストは育鵬社のほうが優れています。やはり甲乙つけがたいところがあるのですけれども、教科書として使うのであれば教育出版のほうがよろしいかなとは思っています。

以上です。

田辺教育長

最後に、私が意見を述べさせていただきます。

7者、歴史の教科書がありますけれども、資料の扱いとか、事象に関する関連の絵です

とか、写真ですとか、図表というものを扱っているのは、群を抜いて育鵬社が資料の扱いや、解説が丁寧で、その事象だけでなく、その時代の背景になるような事柄についても、資料等の扱いがとても丁寧であります。

これからの子どもたちのことを考えると、体験的な学習ですとか、またアクティブ・ラーニングというようなことを言われている中で、様々な資料を読み解いて、自分の考えをまとめていくという活動を続けていくことが求められている中で、育鵬社の教科書は、同じ時代の中で様々な資料を扱っていて、コンパクトにわかりやすく扱っていて、これからの学習に寄与できる教科書ではないかなと私は思います。

それ以外に、前回もお話ししましたけれども、女性の視点で「なでしこ日本史」ということで、女性の人物を時代ごとに扱っていたり、歴史人物Q&Aとか、読み物の資料なども原文であったり、それぞれの資料を引用している部分が多くて、小林委員がおっしゃいましたように、読み物の資料の数などでも群を抜いているというようなことが言えると思ひまして、これからの時代の子どもたちを育てていくにはふさわしい教科書であり、子どもたちの学習意欲も高めるものではないかなというふうに思ひまして、私は育鵬社を全面的に推したいというふうに思ひます。

他に委員のご発言はありますか。

増田委員。

増田委員

私が教育出版を選んだ理由がもう一つありまして、教育出版の中では点字の歴史というのがあります。それが一つと、例えば太平洋戦争のことにしても、拉致の問題にしても、教育出版が双方向の意見を出しているなというところが良いと思ひました。

以上です

田辺教育長

ありがとうございます。

ほかにご発言ございますか。

渡邊委員。

渡邊委員

育鵬社はいろいろな工夫があつておもしろい、読み物としてはおもしろいというようなことを申し上げました。例えば、天下統一の秀吉と信長の話の内容をどのように書いているかということを見ると、育鵬社のほうが充実しています。構成は違うのですけれども、

内容的なわかりやすさというところでは、育鵬社のほうがやはり読み物として、資料はかなり似通っているのですが、似通った中でいかに興味を持たせるかというような点については、育鵬社は、少し教科書をつくる上でいろいろと研究をしてきて、興味を持たせる教科書という、そういうような点については、育鵬社は優れているのかなと思います。

田辺教育長

ありがとうございます。

それぞれの委員の意見を伺いましたが、まだ全体として意見がまとまらないところもございますので、それぞれの委員の立場で再度ご検討いただいて、歴史については次回以降、改めて協議したいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、歴史については次回以降に改めて協議を行うこととします。

それでは、公民について再協議を行います。事務局から前回の協議の経過について報告をお願いします。

指導室長

社会、公民的分野につきましてご報告いたします。社会、公民的分野は、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の7者から採択するものでございます。その中で育鵬社、教育出版の2者について、公民を学ぶ目的の明確さ、問題解決学習の進めやすさ、今日的な社会問題についての学習などについて意見が集中いたしました。協議を進める中で、教育出版及び育鵬社の2者が候補に挙がりましたが、公民については協議が整わず日を改めて再度の協議となりました。

報告は以上です。

田辺教育長

それでは、改めて各委員のご意見を伺います。初めに増田委員のご意見を願います。

増田委員

私は教育出版を候補に挙げました。本当にこの時代にぴったりだと思います。5年後の東京オリンピック、パラリンピックに向けて、みんなで差別をなくして、ともに生きるというメッセージが、もう最初の表紙から伝わっていますので、内容もそうですけれども、この教育出版を選びました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は前回、教育出版と育鵬社の両方を推して、どちらかというとな教育出版ということだったのですけれども、改めて研究したところ、育鵬社も非常にうまくまとめてあって、さつき歴史のところでも述べたように、非常にニュートラルな視点で、公民については書かれているように感じました。

そして、前回も話しましたが、裁判の仕組みのところは、教育出版のほうは詳細過ぎずにまとまっていて生徒が理解しやすい。一方、育鵬社は大変丁寧に記載していて、しっかり読むと、本当に裁判ってこういうふうに進んでいるのだということがしっかり理解できるという、そういう意味では非常にいいなと思いました。

それと、育鵬社でよかったと思ったのは、「考えよう」というコーナーがあって、東京オリンピック誘致のプレゼンターの佐藤真海さんが69ページに出ているのですが、こういった身近な例をうまく取り上げているなということ。この点も育鵬社がいいなと思いました。

一方、教育出版は公民という初めての教科で、ノートづくりも含めて学び方についてのところが生徒にとっては活用しやすいのかなと思いました。

それぞれいい部分が多々あったのですが、私は、教育出版のサブタイトルの「ともに生きる」ということが、公民の一番根源になるところではないかと思ったので、これを明確に打ち出しているという意味で、教育出版がややいいかなというふうに感じました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

公民につきましては、前回のときも申し上げたのですが、「公」という言葉がついていて、中立であり公正であるということを重要なものとして、そういう視点で見ました。それで、領土の問題についてどのように考えているかということについては、双方の公正な書き方だと思われるような記載は、やや教育出版のほうがあるのではないかなというよう

な気がします。

また、見開きごとに段階的に振り返りコーナーが設けられて、ステップアップしていくという使い方は、教育出版のほうが少ないのかなというようなところは感じました。

育鵬社は、領土について、今、日本で問題になっている点を、明確に問題提起をしているところでは、課題というようなテーマで入ってきたのも、これは一つの手法としていいのではないかなと思います。こういう点は、育鵬社はいろいろとよく考えてきたのだらうと思います。

それで、次のページをめくって、世界で活躍する日本人という形で、女性の進出、宇宙への進出、そして、ノーベル賞の受賞者というような形で、なかなか構成がよろしいかなと。

次のページを見ると、「公民」とは何かという内容になっています。教育出版は、公民の勉強、学習を始めるに当たってというタイトルから来ているのですが、育鵬社は、なぜ公民を学ぶのかとか、こういう問いかけで、アプローチの仕方の違いというところが見えていて、それが全体的に教科書のつくりの流れの中に入っているのかなという感じがします。

そういう点では、前回のときも申し上げたのですが、育鵬社の地球儀の表現があるのですが、やはりこの歴史と公民と地理と、この地域と歴史と、そして、その中の生活という意味では、わかりやすい表現の仕方、授業の中でも教えやすいのではないかなというふうに感じました。

あとは、領土問題については、育鵬社はその内容についてより詳しく書かれていて、今の日本における課題に真正面から向かっているという点では、しっかり書かれているというのは良いのではないかなというふうには感じております。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

小林委員、お願いします。

小林委員

私も前回、育鵬社、教育出版について有力な候補として論じてきていますが、その後、いろいろ見た中で、東京書籍や日本文教出版もバランス的にはよくできているなというふうには把握しています。ただ、細かく見ていきますと、例えば自由、権利、それから、もう

一方で責任、義務。これはよく言われるように、権利と義務ということなのですが、権利に関してはちょっとここで置いておいて、責任や義務に関しての取り上げている箇所という点では、育鵬社と教育出版がバランスよく取り上げられています。

ただ一つ、教育出版は、その権利、義務に関して、国際社会における課題に関しての責任、義務の記述が欠落しているというところがちょっと残念なところかなというふうに思います。

一方で、個人と社会のかかわりに関連した箇所、これは公民の学習では、先ほども、ともに生きるということの重要性が、キーワードで示されましたけれども、ここでやはり個人と社会のかかわりということでは、教育出版のほうが、全ての内容について、特に政治に関しても経済に関してもバランスよく取り上げられているということです。この点は育鵬社に関しては、全般的に非常に踏み込んだ魅力ある紙面構成になっているのですが、経済とのかかわりに関してはちょっと弱いという部分が気になりました。

この両者は、ほかの委員からもお話があったと思いますけれども、紙面構成や取り上げられている写真だとか、そういう点では非常に育鵬社は魅力あるもので、しかも現代の課題に非常に突っ込んでいる部分があります。北朝鮮による拉致の問題なども非常に真摯に取り扱っているという部分も一つの評価の対象だと思います。

一方で、教育出版を見ると、教科書として、やはり優れた紙面構成が散見されます。例えば、それぞれ多くのページに「ふりかえる」という、そういう欄が教育出版には挙げられているのですが、ここでステップとして2段階、基礎的な部分や発展的部分でどこを押さえたかという、どこを押さえるべきかということが明確に示されているので、学習をする際には非常にしやすいという利点があると思います。

したがって、この両者に関しては、一步踏み込んだ、内容も豊富な育鵬社を選ぶべきか、又は教科書としてのまとまりのある教育出版を選ぶべきか、この両者に関して、私ももう少し考えを深めていきたいなど。この両者、歴史と同様に悩ましい状況がございます。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。それでは、私からも意見を述べさせていただきます。

私は、育鵬社の教科書が群を抜いて特徴的に優れた編集をしているのではないかなというふうに思いました。先ほど渡邊委員からありましたように、初めの見開きの「私たちを取り巻く課題」ですとか、その後続く「なぜ公民を学ぶのか」というところでは、地理、

歴史、公民の概念を、地球儀を使ってとてもわかりやすく解説をしていて、日本の歴史に連なる自分が存在しているのだということを自覚させた上で、家族、地域社会、国家、国際社会と自分との関係を認識することで、自主的あるいは自立的な精神を養うことができるように工夫をされているということでは、本当に優れた教科書だなというふうに思いました。

また、次のページの見開きですけれども、人生の物差しということで、自分が過去、どういう生き立ちをしてきたか、それから今後、どういう存在になっていくのかということ、社会全体の中で理解していこうということで、公民の学習を始めるに当たって、スタートとしてはとてもふさわしいのではないかなというふうに思いました。

それから、自主的、自立的に学んでいくため、あるいは様々な資料を使って、自分の考えをまとめていくというところでは、單元ごとにやってみようですとか、何々の入り口とか、それから理解を深めようとか、やってみようというようなコーナーがあって、ディベートですとか、それから調べて表現をするというような取組ができる、そういうページも用意をされているというようなことで、これからの子どもたちにとって必要な教科書ではないかなというふうに思いました。

それから、「国家と私たち」というところで、国旗と国歌の扱いがとても丁寧に書かれていて、ほかの国のものも紹介をして、尊重して、自分の国の国歌や国旗も大切に尊重しようという精神を学べるということでも、日本人としてこれから世界の中で生きていくための必要な知識が学べるということでは、すばらしい教科書ではないかなというふうに思いました。

以上です。

それでは、一通り各委員のご意見を伺いましたが、全体として意見がまとまっていない状況ですので、それぞれの立場で再度検討していただいて、公民については、次回以降、再度協議したいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、公民については次回以降、改めて協議を行うこととします。

それでは、歴史及び公民については、7月31日に改めて協議を行いたいと思います。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第7回臨時会を閉じます。

午後 8 時 1 4 分閉会